「鶴居村の教育」発刊に寄せて~連携を一歩進めよう～

鶴居村教育委員会教育長　村上明寛

鶴居村の教育が充実・発展するうえで重要な役割を担う鶴居村教育研究所が、令和２年度の活動の成果をまとめた研究紀要「鶴居村の教育」を発刊されますことに心からお祝いを申し上げます。

また、鶴居村教育研究所におかれては、本村学校教育全般にわたる調査研究、教職員の資質向上に取り組まれるとともに、教育委員会と一体となって学校教育の推進に寄与していただき、感謝と敬意を表します。

今年度は特に、新型コロナ感染症対策に伴い、調査研究にも大きな支障が出たと思います。やりたいことができない歯がゆい１年間だったのではないでしょうか。そうした中にあっても、事務局や各部ができる限りの活動を行っていただいていることに、改めて敬意を表します。

さて、私が教育長を拝命してから１年半経ちますが、この間、コロナ対策に大半をつぎこんできた印象です。これでいいのかと自問しながらも、児童生徒・教職員の健康と安全を第一に取り組んできたところです。私事ですが、今年の年賀状には「コロナ対策に明け暮れた１年でしたが、新年はいろいろチャレンジしていきたいです」と添え書きしました。

チャレンジ‥そのキーワードは「連携」です。

学校にかかわる「連携」には様々な連携がありますが、校内にあっては「組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む」。学校間にあっては「接続を円滑にする」、「成果と課題を共有する」、「目標や方法を緩やかに揃える」。学校・地域間では「子供の成長を軸とした協働」、「地域から学校への一方向の協力ではなく双方向のつながり」。といったイメージです。

こうしたことを「チャレンジ」と表現したのは、それがたいへん難しいことだと思っているからです。例えば、「小・中連携」を例にとっても、一般的な課題として「教職員の意識」が挙げられています。小学校と中学校の授業持ち時間数の違いや部活動の有無、いわゆる文化や気質の違いといったことです。

連携の目指す姿やそこに向かう道のりを共有するためには、相当の議論が必要であり、体制づくりなどの準備が必要です。一方で「走りながら考える」ことが有効な場合もあります。すでに村内では、中学校区ごとに小中合同研修会などが行われ、小中連携を進めるための具体的な提案もされています。とても心強い取組です。しかし、実際に一歩進めるためには、「きっかけ」や「体制」が必要ですし、リーダーやコーディネーターがいないとなかなか前に進めないのではないでしょうか。

そこで令和３年度は、まず「きっかけづくり」を行いたいと思っています。国の加配や道教委の事業を活用して、村全体の連携をコーディネートしていけるような「小さな体制」を用意することから始めたいと考えています。こうした事業への取組を契機として、様々な「連携」が進むことを期待していますし、そうなるよう教育委員会として力を尽くしていきたいです。

鶴居村教育研究所におかれては、教育委員会のこうした取組も意識して、研究活動を一層進めていただき、個々の教職員の資質の向上と「鶴居村の教育」の充実につなげていただきたいと思います。

今後とも、鶴居村教育委員会と鶴居村教育研究所そして校長会・教頭会をはじめとする関係団体が一層「連携」を深め、車の両輪あるいは前後輪としてそれぞれの役割を果たし、互いに補完しながら、「鶴居村の教育」のさらなる発展・充実に努めていきましょう。